

大谷學報

第五十卷 第一號

昭和九年一月二十五日發行

金澤稱名寺三世本如房湛睿

大屋 徳城 (一)

金澤文庫新出の史料に據る事蹟並に學風の研究

道綽禪師と三階教

道端 良秀 (二)

金帝室と佛教

野上 俊靜 (五)

「本典」の組織より見たる「行信」の問題に就て

禿 諦住 (七)

唯識心分説の發達過程

富貴原章信 (九)

—四分義の一部として—

眞宗大谷派講者列傳

岡崎 正謙 (四)

龍樹造・中論無畏疏(前續)

寺本 婉雅 (六)

黃落の秋

大屋 徳城 (八)

新刊紹介(九) 研究室彙報(一〇)

大谷大學

大谷學會

大谷學會々則

第一條 本會ヲ大谷學會ト稱シ、事務所ヲ大谷大學内ニ置ク。

第二條 本會ハ佛教學、哲學、史學、及ビ文學ニ關スル諸般ノ研究ヲナスヲ以テ目的トス。

第三條 本會ノ會員ハ大谷大學教職員、學生及ビ本會ノ趣旨ニ賛同スル者ヲ以テ組織ス。

第四條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ。

一、年四回雜誌『大谷學報』ヲ發行シ之ヲ會員ニ頒ツ。

二、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク。

三、隨時圖書ヲ出版ス。

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク。

一、會長 一名

二、理事 二名

三、委員 若干名

第六條 役員ノ職責左ノ如シ。

一、會長ハ本會ヲ代表シ、委員會ヲ總理ス。

二、理事ハ會長ヲ補佐ス。

三、委員ハ庶務、編纂、會計ノ事務ヲ分擔ス

第七條 役員ノ任期左ノ如シ。

一、會長ハ大谷大學々長ヲ以テ任ズ。

二、理事ハ大谷大學學監ヲ以テ任ズ。

三、委員ハ會長ノ指名トシ、任期ハ二年トス。

第八條 會員ハ雜誌『大谷學報』ノ配布ヲ受ケ本會主催ノ會合ニ出席スルコトヲ得。

第九條 會員ハ會費トシテ年額金參圓ヲ納ムベキモノトス。

第十條 本則ハ委員會ノ決議ニ依ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ。

附則 一、本會ハ佛敎研究會ヲ繼承ス。

二、本會ハ本學ニ於ケル佛敎學、哲學、人文學各研究室所屬ノ研究會ヲ統合スルモノトス。

三、本則ハ昭和三年一月ヨリ實施ス。以上

大谷學會役員

會長 上杉 文秀

理事 朽木 廣覺 重永 潜

庶務委員 阿部 現亮 雲村 賢淳

編纂委員 鈴木貞太郎 大須賀秀道 寺本 婉雅

鈴木三七 可西 大秀 福井 元澄

雨宮 尙治 雲村 賢淳

會計委員 吉田嘉一郎

前 號 目 次

他力轉入の内容に就いて

大須賀秀道

農村の社會學的見方

鈴木榮太郎

世親の唯識二論の根柢をなす入地の體驗

稻津 紀三

南海に於ける大乘王國三佛齊とその佛教文化(一)

藤井 周慶

淨土論に於ける二乘種不生に就て

西尾 京雄

親鸞聖人假名聖敎用語の研究(三) 藤谷 一海

——三帖和讃に於ける敬語助動詞シムに就て——

龍樹造・中論無畏疏(前續) 寺本 婉雅

新刊紹介 研究室彙報

大谷學報第十四卷總目錄(卷末)

大 谷 學 報

行發回四年

月十・月七・月四・月一

會 費 年 額 金 參 圓(但前金送料共)
定 部 價 普 通 號 金 壹 圓(送料六錢)
特 輯 號 隨 宜 申 シ 受 ク(送料六錢)

料 告 廣

表 紙 裏	普 通 頁	一 頁	半 頁
參 拾 圓	貳 拾 圓	拾 貳 圓	拾 貳 圓
拾 七 圓			

昭和九年一月二十日印刷
昭和九年一月二十五日發行

(第十五卷・第一號)

載 轉 禁 製 複 許 不

編輯者 大 谷 學 會
右代表者 重 永 潜
印刷者 須 磨 勘 兵 衛
印刷所 大 谷 大 學 出 版 部
京都市北小路新町西入

發行所 京都市烏丸頭 大谷大學內 大谷學會庶務部

電話西陣一六四〇番
振替大阪六七一八五番